

Okahata

NEWS LETTER

Business updates, new ideas and more
from Okahata

2020
07



My partner in crime, Mr. Jatia from his home

”Withコロナこそ、専門商社は3倍コミュニケーション！”
こんにちは、岡畑典裕です。

「7割経済」に生産性向上で立ち向かうメーカーさまの
チャレンジに、我々は今まで以上に有用な原料情報を探
し続けることでお応えしたい！メーカーさまが生産性
1.5倍を目指すなら、我々は3倍の情報を、3倍のコミュニ
ケーションを！

2月から取り組んだWeb面談も毎回新たな学びがあり、配慮あるITリテラシーやコンテンツさえあれば、目的によって対面以上に効果的。移動なしで、多対多の専門家打合せが出来てしまう、“どこでもドア”(とヨハンクライフ)の衝撃を一過性に終わらせず、稼いだ移動時間を“3倍コミュニケーション”に充て、多くの取引先様の声を聞き、専門知識を集め、次の原料探索へ活かしていきます。

【皆さまにお願い】

小さなことでもぜひお声かけ下さい。

こんな時こそ、短時間×頻度良く。皆さまにお役に立つべく、“3倍コミュニケーション”にチャレンジし続けます！

Withコロナでもドンドン新しい原料提案が出来るのも、インドのパートナーBlack Rose Industries Ltd.(以下BR)、韓中台の海外個会社の動きの良さがあってのこと。今回はインド特集。BRのAnup Jatiaさんのインタビューです。

【7月の弊社イベント】

1. 社長主催の月例全社zoom会議で、換気と距離、コミュニケーションを重視した社内感染防止プロトコル1.0を発表。在宅勤務中、ヨコのちょっとした会話を促そうと始めた毎日社員ひとことリレーも一巡。次はリモート・社内ゴルフコンペかも？オンラインでも豊かなコミュニケーションは可能だと信じて、あがきつづけます。



2. 大阪本社の管理部門と営業部門が念願のワンフロアに(仮)。出社率最大50%(弊社は20%と50%の2ギア制)なので出来たコロナ効果。
3. 8月から、3ヶ月フィリピン英語研修にエース社員2名が旅立ちますが、残念ながらオンライン留学。24時間外国で英語漬け体験は出来ませんが、弊社海外ビジネス展開が加速する中、英語スキルは待ったなし！

コロナ禍でも皆さまの代わりに3倍動き回る専門商社、岡畑興産をよろしく申し上げます。

化粧品・衛生用品周りの インド原料、はじめました。

中国もインドにもご縁があります、萩田です。

弊社とインドの歴史は、80年代後半、現Anup社長のお父様の頃のアニリン輸出や染料中間体の輸入から。私自身の初海外出張もインド、きつい腹痛をお土産に香港経由で帰国したのは良い思い出です。現社長のAnupさんとは同い年の関西人（Anupさんは神戸育ち）という事もあり、何か新しい仕事をしたいね、と2人で始めたのが、アニリンやシクロヘキサノンをタンカーでインドに輸出する仕事。なにせ何も分かっていない二人ですから、トラブル頻発。結局、バルクの仕事は弊社の身丈に合わず撤退し、私は中国駐在へ。それ以来、中間物輸入は続けていましたが、この数年はインド再注力。我々の得意分野でもある、化粧品・衛生用品回りの原材料メーカーに注目しています！

例えば、薬用石鹼や歯磨きに入っている殺菌成分、サンスクリーンに使用されるUV吸収剤、化粧品やアルコール製剤のゲル化増粘剤など。日韓中+インドというのが岡畑のこれからのフィールドです！（萩田）

コロナ禍インドのリアル、 感染者数増と安定供給のクラクリに迫る

(岡畑典裕/萩田良一)

Black Rose Industries Ltd. Anup Jatiaさんインタビュー

半年ぶりの国内出張前日でご機嫌なAnup JatiaさんをZoom突撃インタビュー。州を跨ぐ時に必要な「ePass」を見せてもらいながら、会話はスタート。いきなり、一番の関心事をぶつけます。

Q: 感染者数のひどさの割に、化学品原料の調達問題はあまり聞かない。これはどういうクラクリ？

AJ: 都市部の感染は報道通りヒドいが、郊外に出れば訪問面談も可能。化学工場は、労働者と物流の確保に苦勞しているものの、生産現場の感染防止策は徹底されており、生産活動は安定。各社とも国内需要減は避けられず、輸出ビジネスに注力している分、海外ビジネス向け供給は崩れていない。価格も以前よりネゴできるケースも多いので、実はインド品に取り組むには、悪いタイミングではありません。

Q: 今までのインドのロックダウンと経済状況は？

AJ: 4～5月のロックダウン期間中は生産活動が完全ストップ、インド全体で資金繰りが問題となっていました。6月の経済 & 生産活動リスタート(Unlock 1.0)以降は需要減はあるものの、経済は比較的安定。

Q: このペースで感染拡大が広がると、4月の様な完全ロックダウンに戻り、供給が止まる状況にならないの？

AJ: 可能性は低い。経済を回しながら、感染状況に合わせた厳格なロックダウンをするものの、地域も期間もピンポイントで、生産もゼロにはならない為、供給への影響は限定的。国内物流は遅れ気味なので、納期問題はあり得るものの、供給そのものは止まらない。

Q: 中国との国境問題の影響は？

AJ: モディ首相の “Self Reliant India (自立したインド)” 方針の長期コンセプトは、中国に依存しない経済作り。

化学業界も、中国以外の原料比率を高めたり、中国以外の輸出市場開拓やそのための技術支援を進めるなど、脱“中国依存”は一過性ではない長期トレンド。結果として、今まで以上に、日本からのインド品ソーシング、インド市場販売やインド投資にはチャンス。

我田引水的で恐縮ですが、岡畑興産としては、信頼関係No.1 (取引金額はNo.1ではない、涙)のパートナーBRと、新たな分野のインド原材料を日本にマーケティングするには、絶好のタイミング！

最後に少し軽い話題も。

Q: ロックダウン期間にインドで流行ったことは？

AJ: 社会階層が多様過ぎて、(お菓子作り、ガーデニングと言うような)分かりやすいトレンドはないな。みな映画好きなので、大型テレビやスマホは相当売れたかな。

Q: ロックダウン期間に作った自慢のレシピは？

AJ: “Eggs Kejriwal” = 目玉焼き、チーズ、唐辛子のオープンサンド。

ポイントはトッピングの唐辛子で、これに様々なスパイスなどを加えて楽しむ、ムンバイの家庭料理。
<https://images.app.goo.gl/4o4HEBpCtrh8HLj76>
あとは、ご家族揃って“ロックダウン・ダンス”を撮影したのは、ここだけの内緒の話です。

Q: インドといえば、お祭り。人が集まるお祭りはこれからどうなるの？

AJ: コロナ対策は大事だけれど、人と人の絆を結ぶお祭りは、インドから絶対無くならないよと、力強いお言葉。

Anupさん、ありがとう。国内出張、くれぐれもご安全に！

Special Thanks

インド関連の質問作成協力

岡畑興産：山田 雄也
竹内 崇大
菅 成美
藤岡 秀章

岡畑コリア：張甲成

岡興上海：徐黎文

■ 編集後記

「若者の行動力に未来を託す」

(社内報Gazette2020年7月号第2便より引用)

コロナ、九州地方をはじめ各地の洪水被害……。地球にとって最大の敵は「温暖化を許している人類」かも、と憂鬱になっている時、友人が教師をしている学校の女子学生から次のようなメールが届きました。

「〇〇学園高等部3年〇〇〇〇と申します。

この度、高校生の視点から教育問題にアプローチするために「高校生団体Camim」を設立いたしました。「すべての子どもたちに教育を」を理念に掲げ、只今「外国人の義務教育権の取得」の署名活動を行っています。

外国人の子どもには、就学義務も、義務教育の権利もありません。それどころか、不就学学齢児童生徒調査(学校に通っていない子ども達を把握するもの)には、「外国人は、対象から除外する」と明記されています。同じ人間にも関わらず「外国人だから」との理由だけで教育を受けられないのはどうなのでしょうか？

皆さんの署名が集まり次第、外国人の子どもの修学義務に関する法案を提言したいと考えています。全ての子どもに平等な教育が行き渡るよう、是非署名にご協力をお願いします！！

このリンク先【<http://chng.it/wLRpgXSJgJ>】から30秒ほどで署名ができます。メールアドレス認証をしてから賛同完了となりますのでご注意ください。

この団体は設立したばかりですが、他にも不登校・経済的事情を抱える子どもたちの支援、哲学プラクティスの推進などの活動に力を入れていきたいと思えます」

折しも世界経済フォーラム(WEF)が各国のジェンダー不平等状況を分析した「世界ジェンダー・ギャップ報告書2020」に2019年版「ジェンダー・ギャップ指数」を公表しました。対象は世界153カ国で、「ジェンダー間の経済的参加度および機会」「教育達成度」「健康と生存」「政治的エンパワーメント」の4項目の指標を基に格差を算定し、ランキング付けされています。

日本は121位と昨年の110位から11順位を下げ、過去最低の順位となりました。もちろんG7の中では、いつものことながら最下位です。特に国会議員、政治家・経営管理職、教授・専門職、高等教育(大学・大学院)等、社会のリーダーシップを発揮すべき分野での多様性、国際性の評価が著しく低いものでした。

彼女たちの行動に、前号でご紹介した映画「Pay It Forward」を思い出しましたが、同時に自分が高校三年生の時は何をしていたのだろうか、今なら何ができるのだろうか、と考えさせられました。そして若者たちの行動力に未来を託したいと思いつつ、「賛同」の署名を行いました。(kiki)

岡畑興産株式会社 ニュースレター／毎月発行
2020年7月29日号
発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6

TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

2020.7.29 / Issue 003